

平成 30 年度 第 1 回バス路線網再編部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：平成 30 年 10 月 19 日（金）午前 10 時～午前 11 時 30 分
2. 場 所：熊本市 国際交流会館 4 階 第 3 会議室

II 主な内容

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 議事

① 本年度の取組について

(事務局)

- ・資料 1 を用いて説明

(委員)

- ・競合路線の改善ということでイメージが書いてあるが、これはダイヤ改正だけで事業者間の調整ができるのかという心配があるが。

(事務局)

- ・2 社以上が競合している路線においては、一方の会社に移譲することで競合路線の改善をはかるのがベストな方法だと思う。ただ、現在バス事業者は経営状況が非常に厳しく、それに加えて乗務員不足が新たな課題として深刻化している。こういった背景から、移譲後において乗務員を確保して運行することが困難な状況にあるので、熊本市が間に入り、ダイヤを調整し、利用者にとって少しでも利便性を向上できないかということで、今回このような取組をさせていただきたいと思っている。

- ・また、バス事業者はそれぞれ異なるシステムによってダイヤ等を作成されており、時刻表についても基本そのシステムから出すような仕組みなので、今回実施にあたってはバス事業者からそれぞれ時刻表をご提供いただき、それを手作業で1つの時刻表に仕上げていくということになる。そうするとマンパワーが必要な作業になるので、まずは2路線を先行してやりたいと考えている。

(九州産交)

- ・まず東西線であれば、九州産交バスの方が本数は大幅に少ない。長嶺小学校～免許センター間が赤字を生んでおり、その赤字の部分を熊本都市バスに移譲しているのか議論もある。また、免許センター行きは、ご存知の通りスポーツ大会があるときには臨時バスを運行する必要がある、その運行を九州産交バスが担ってい

るという問題もある。車両についても両社とも潤沢な予備車両を持っているわけでもなく、そういった様々な問題もある。このような状況もあり、まずはダイヤの調整から取り組んでいきたい。その一方、熊本県全体で免許センターや運動公園へのアクセスをどのような形で確保すべきかという問題も考えるべき。

(熊本都市バス)

- ・今回お示した路線以外にも競合している路線がある。それらの整理については、様々な利用状況等を整理しながら取り組んでいくことになるかと思う。

(委員)

- ・収支の問題や乗務員の確保等、厳しい状況のなかで、バス事業者が相互に協力し、その間に入る行政の責任は重たくなると思うが、良い方向に向かうように努力をお願いしたい。

(委員)

- ・日赤の近くに住んでいるが、時間帯によっては、先に来たバスに全員乗ってしまって、後から来たバスには全然乗っていない等の状況が見られる。やはり厳しいことはあるにしても、ダイヤを調整することは、バス事業者にとっても利用者にとっても良いと思う。
- ・路線評価については、ICカード等からデータ分析し評価するとのことだが、年齢や特性、時間帯で利用傾向が変わってくると思う。そのあたりはどう考えているか。

(事務局)

- ・ICカードのデータについては、おでかけICがあるので、70歳以上の高齢者については別管理でデータがとれる。障がい者の方についても同様かと思う。また、国勢調査の人口データについても、年代別でとれるのでそのデータを活用する予定。現在、評価業務の途中のため具体例を示していないが、高齢者の視点等も加味した評価を実施したいと考えている。

(部会長)

- ・ICカードは現在、おでかけICと通勤、通学とあとは一般になるので、年代での区分けはそれが限界かと思う。記名式のICカードに住所情報が紐付けられていると、住所と移動の方向性も分析できる。ODデータを活用することによって、様々な分析が可能なので、ダイヤ調整だけでなく、需給バランスの分析等も実施していただきたい。
- ・ダイヤの調整にあわせて、統合時刻表は必ず作ってほしい。利用者にとって、どのバス会社が運行しているかは関係ないので、利便性向上のためにも是非取り組んでほしい。
- ・ほかにも競合路線があると思う。次回で構わないので示してほしい。
- ・分析システムについてはどういったものをバス事業者にもお見せして、こんな

機能がほしいとかそういった要望を汲み取ってもらえれば。

(事務局)

- ・バス事業者にお声掛けさせていただいて、分析評価のイメージ等について共有させてもらっている。より精度の高いあるいは今後の路線再編に使えるような評価ツールとなればと思っている。

② 植木・小島方面の再編について

(事務局)

- ・資料 2 を用いて説明

(九州産交)

- ・資料 3 を用いて説明

(事務局)

- ・資料 4 を用いて説明

(部会長)

- ・運輸支局の委員からなにかアドバイス等があればお願いしたい。

(委員)

- ・今回の再編では、区間を短縮することにより定時性を向上させ、運行効率を上げて乗務員を確保するというので、現状を踏まえるとやむを得ないことだと思うが、乗換等の負担が強られる利用者もいるということになるので、利用者への周知を丁寧にやっていただきたい。

(部会長)

- ・当初はゾーンバスシステムを導入しようということで協議会の場で話をしてきたが、地震後に乗務員不足の問題が顕著になったため、より早く効率的に進めるにはどうしたらいいかということで議論を進めてきたと理解している。

(委員)

- ・現状、玉名市等から交通センターまで利用されている方の利用目的を知りたい。以前は買い物目的での交通センターまで来ていただろうが、現在は各地に大型のショッピングモールもあり、交通センターまで来る目的がなくなっているのではないか。今後、新バスターミナルができると、また少し変わってくると思うが、そういうときは状況に応じて、また再検討が行われるのか。

(九州産交)

- ・来年再開発ビルがオープンするので、路線バスの運行については色々と要望はある。現在は、平日よりも土日の便数を昔と比べても減らして運行しているが、これを再び増便できるのかというと、乗務員の休日を確保するためには、簡単には増やせない状況で、実際は交通分担を考えざるを得ない。例えば玉名から交通セ

ンターに行くには、JRと熊本駅から市電若しくはバスを使用するのが、1番早くて安く、定時性も高い。今後利用者もそのように選ぶと考えられる。また、乗務員を増やして運行を確保したいとも考えるが、今、乗務員の確保のために最も有効な手段は、休みを確保することである。給料の問題よりも休みの確保が重要であり、このため、休日日数を増やそうとすると勤務交番数も増えて人が更に必要になる。どちらを先に取り組むべきかという、難しい状況にある。このような点から、一度、今回のように運行を見直すと、元に戻すのは難しいと考える。

(委員)

- ・乗り換えをする場合、定期を持っている方は不都合なくできるのかということと、乗り換え場所の環境について、どのように考えているか。

(九州産交)

- ・乗り換えの運賃割引についてはまだ対応できていない。定期だと問題ないが、乗り換えの運賃割引については、システム上厳しいので、ポイント還元によって、実際に負担される運賃が上がらないような仕組みを開発しなければならない。来年度の再編実施段階においては、当社の負担にて開発すると考えている。
- ・乗り換えの場所については、これからの大きな課題だと捉えている。とくに天水～小天温泉のなかでは、停留所の移動や、後ほど報告があるが、熊本市での取組のようなコンビニの活用等、当社独自で玉名市様も含めてなにかできないか検討していきたい。バスロケのモニターについても、設置できるところとできないところがある。植木は元々乗換の拠点であり利用者も多いのでバスロケのモニターを設置する予定であったが、乗り換えの停留所についても、設置を検討したい。各方面における乗継の障壁の解消について、取り組んでまいりたい。

(部会長)

- ・植木・小島方面の再編については先ほど説明いただいた内容で、来年10月運行開始に向けて滞りなく進めていただきたい。実施後には、利用状況等、報告していただければと思う。
- ・本日は具体的に再編案をお示しいただいたが、まだまだ競合路線があると思うので、そのあたりも協議を進めていただければと思う。それと同時に利便性を下げないよう、色々と工夫していただきたい。民間事業者との協力も実施可能なことはまだまだ、あると思われる。

③ バスロケーションシステムについて

(九州産交)

- ・参考資料1を用いて説明

(部会長)

- ・来年早々には試験運用があつて、交通センターが開業するまでには十分間に合う

とのことだが、確定した段階で早めに市民に周知し、試験画面等を流しておく、練習もできると思う。

- ・また、ここから得られるデータも重要で、どこから検索したか、どここのバス停から乗ったのか等、非常に大切なデータなので、ICカードのデータと組み合わせて、サービスの改善に繋げていただきたい。

(委員)

- ・視覚障害等のある方への対応は考えているか。

(九州産交)

- ・現時点では、仕組みとしてあまり例がないので、難しいと思う。まずは全事業者で導入するということを目指して進めてきているので、これから皆様にご利用をいただきながらどんなシステム開発があるのか等、検討させてもらえればと思う。

④ バスの待合環境改善について

(事務局)

- ・参考資料2を用いて説明

(委員)

- ・資料にある協力店舗についてははすでにこの事業に協力するという事で決定しているのか。
- ・全店舗を回ったのか。

(事務局)

- ・26店舗については了承をいただき、10月1日から運用開始している。
- ・まずは本部の方と話をし、その後必要に応じてオーナーや店長と話をしている。

(委員)

- ・バスは公共交通という名が付きながら、行政とバス事業者で色々と努力しているなかで、市民側はあまり意識していない。
- ・公共交通基本条例で、「市民も協力して公共交通を支えていく」とあるように、「みんなでバスを支える」社会でないと、結果がついてこないと思う。例えばバス待ち処でバスを待って、バスに乗ったらポイントがつくとか、バスかクルマで悩んだときに「バスに乗れば得する」部分があると良い。高齢化社会に向けて、バスがなくなると困るので、私たちも努力する必要があると考える。

(部会長)

- ・ICカードもあり、プラットフォームが整ってきているので、お金はかかるが、可能性は昔に比べてずいぶん広がった。今後も、色々なアイデアを考えていただきたい。

(委員)

- ・協力店舗では、バスが来たときの表示や合図等はあるのか。

(事務局)

- ・現時点ではない。時刻表を確認して、バス停に行ってもらえることになるが、バスロケーションシステムが来年の4月から運用を開始すれば、それを見ながら動けるようになると考えている。

(委員)

- ・協力店舗において、くまモンのICカードでの買い物やチャージはできるのか。

(九州産交)

- ・大手のコンビニにおいては、全国共通ICカードであれば全てシステムが入っているが、くまモンのICカードについては、システムを導入するとなると数億円かかるということもあり、買い物での利用やチャージについては実現できていない。

(部会長)

- ・今ご指摘の内容は、全国共通ICカードでは、すべて問題なく可能であり、どのカードを選ばれるかは利用者次第ともいえる。その一方で、全国共通系ICカードにおいて、ポイント付与することは難しい。くまモンのICカードはポイント付与に取り組むことはできる。対象路線は南方面の店舗が少ないようだが、なにか理由があるのか。

(事務局)

- ・バス事業者に依頼をして、バス停から徒歩1分圏内にあるスーパー、コンビニをピックアップしてもらった。そのなかで、今回は最初に取り組むということでバス停が目前にあるような店舗のみ、抽出しており、地区で分けたとかではなく、たまたまこういった結果になった。

(部会長)

- ・ほかに意見等ないようであれば、事務局からなにか。

(事務局)

- ・本日ご議論いただいたバス路線網の再編については本市をはじめ沿線自治体、公共交通事業者が連携して、基本にご報告した内容にて事業を進める。また、その取組については、状況に大きな変化がなければ、年度末の協議会にてご報告したい。

(部会長)

- ・本日の議事を終了する。